

研究ノート

中国語初級学習者によく見られる問題点について

李 婷

同志社女子大学・現代社会学部・社会システム学科・助教（特別契約教員）

An analysis of some Chinese program errors made by a beginner

Tei Ri

Department of Social System Studies, Faculty of Contemporary Social Studies,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Assistant professor(contract)

はじめに

同志社女子大学では、共通教育の第二外国語科目から中国語を選択した場合、春学期は初級中国語基礎、秋学期は初級中国語演習を毎週二回（一回90分）でゼロから中国語を学ぶことになっている。

教科書は『語順から学ぶ中国語 改訂版』（朱捷・朱鳳著、白帝社、2015）の二冊が使用されており、春学期はその1、秋学期は2を勉強する。『語順から学ぶ中国語1 改訂版』はピンインの読み方など発音の部分を除いて、10課から構成されている。一課の主な構成として、会話形式の本文、本文に出る新しい語句、本文の文法ポイント、そのポイントに即した二つのドリルと二つの宿題が含まれている。そのほか、一課ごとに五つの日常会話文と「ここが大事！」のコラムがついている。秋学期の教科書の構成もこれと概ね同様で、日常会話文はなくなるが、会話形式の本文の後ろに、長文形式に再構成された本文があって、新しい単語やポイントも含まれているため、言わば本文が二本ある形になっている。また、巻末に、付録がついており、二冊の教科書を通して学習した主な品詞、文法及び動詞・形容詞の語順が例文付きで纏められ

てある。この教科書二冊で、計926個の単語が使用されており、中国語検定三級までの文法もほぼ網羅されている。

教科書の標準的な進め方として、1の場合、新しい語句と会話形式の本文及び文法ポイントを二分にし、一回目の90分の授業では、新しい語句前半→本文前半→文法ポイント前半→ドリル1の一部を勉強した後、ドリル1の残りとして宿題1を宿題にする。次の授業では、前回の宿題で既習内容を復習し、新しい語句後半→本文後半→文法ポイント後半→ドリル2の一部を終了させた後、ドリル2の残りとして宿題2を宿題にし、更に単語を覚えさせる。三回目の授業では、単語テストと宿題の確認が終わった後、五つの日常会話文を練習して、コラム「ここが大事！」について説明する。これで一課が完結する。時間に余裕があれば、次の課のサイクルに入る。課によって、内容の量や難易度に差があるため、それで時間を調整し、90分×2回×15週（リスニング・筆記試験の時間含む）で教科書を終わらせる。

秋学期では、新しい語句の部分と文法ポイントを会話形式の本文と記述形式の長文で二分する。ドリルも1は会話文、2は長文とセットになっているから、春学期と大体同じ順番で学習

を進める。

筆者は、この教科書を使い、2015年4月から2018年1月まで初級中国語基礎と初級中国語演習を担当した。受講生は主に現代社会学部（現代社会学部システム学科）の一回生で、一部学芸学部国際教養学科の学生も含む。本研究ノートでは、教科書に沿って、これらの中国語初級学習者の学習過程中、よく見られる間違いを取り上げ、分析を試みる。また、授業を進める過程で気づいた問題点も提起し、今後の同授業がより円滑かつ効果的に行われるための参考になることを小稿の目的とする。

一

まずは発音に関する問題点を挙げてみる。基本となる六つの単母音の中で、学生にとって一番難しいのはeで、次はüと考えている。教科書では、eに対して、「口をやや左右に開いて、『ウ』と『オ』の中間の発音をする」の説明や口の形を絵で示しているものの、学生が実際発音してみると、どうしても日本語の「ウ」の発音に流れてしまう。それは、初めて触れる発音に対する緊張感が一因となっているように思える。特に「口をやや左右に開く」という説明があるため、緊張して唇を左右に引っ張るため、唇及び歯間距離が狭くなり、「ウ」の発音になってしまうと考えられる。余計な緊張を防ぐ方法として、単母音のaを先に発音させ、そのまま口を半分に関閉するようなやり方を学生に勧めている。単母音のaは日本人の学生にとって割と簡単に発音できる音で、リラックスして発音できる母音である。a→eで、学生は唇も舌もリラックスした状態で発音できる。また、上下の歯の間隔が足りず、正しく発音できない学生に対して、人差し指の指先が入れるぐらいの間隔を空けるよう説明し、矯正する。

üに関しては、日本の「ユ」と発音される傾向がある。唇をすぼめて発音することは殆どの学生ができていますが、問題は舌の位置にある。下の歯にくっ付いているはずの舌が途中から離れてしまうと、正しい発音ができない。練習法

として、iを先に発音させ、その音を伸ばしつつ、唇をすぼめると、発音が大分きれいになる。

子音の学習過程中、そり舌音が一つの難関である。学生は大体英語を勉強した経験があるので、それを活かして、ch、sh、rを練習させても良い。もちろん、厳密に言えば、英語のch、sh、rはこの三つの音と多少相違があるが、初歩的な練習法としては差し支えないと思われる。残りのzhはそり舌音の最初の音であるためか、学生の大多数は正確に発音できない。本人は舌を反り上げたつもりでも、教師から見ると、そうでない場合が多い。その場合、zhをch、sh、rよりも後回しにすれば、より簡単にできるようになる。また、z、c、s、zh、ch、sh、rの後ろにiがつく場合、学生はそれを単母音のiと発音してしまうことが多いが、その七つの子音の後ろのiは母音のiと異なる発音になっていることを説明して、学生がしっかりと覚えるまで、根気よく直す必要がある。

声調の部分では、三声の変調が一つの課題としてかなり後まで残る。大多数の学生は三声変調のルールを覚えていないため、三声が出てくる度に、音読の流れが悪くなる。この問題を解決するには、学生に音読させる前に、文に出てくる三声を全部ピックアップして、その三声がどう変調していくかを説明した上で読ませた方が良からう。

四月春学期が始まってから、ゴールデンウィークに入るまでの時間を発音の授業に使う必要があると思う。正しくきれいに発音できることは、学生がこれから続く中国語学習において、非常に大切でかつ意義重大なことなので、時間の許す限り、学生一人一人の発音を丁寧に見てあげるのが望ましい。

二

『語順から学ぶ中国語1 改訂版』には主に以下のような文法ポイントが含まれる。

- ・動詞述語文：動詞「是」「有」「在」を用いる文

- ・名詞述語文
- ・形容詞述語文
- ・比較文：前置詞「比」を用いる比較文、動詞「没有」を用いる比較文
- ・連動文
- ・疑問文
- ・完了を表す「了」と語気助詞の「了」
- ・助動詞：可以、想、能、要、会
- ・前置詞：在、离、给、从、跟、为
- ・副詞：很、也、刚、才、就、不太、好像、在、别
- ・助詞：語気助詞“吗”“呢”“吧”、動態助詞“过”
- ・補語：様態補語、数量補語、結果補語、程度補語
- ・慣用表現：“一……就”、“太……了”、“A是A，就是……”、“快要……了”

以上の文法ポイントはドリルと宿題を通して、ある程度練習・復習させることができるが、ドリルは授業中で練習することが多いため、教師と生徒による共同作業の部分である。それに対して、宿題は完全に学生の単独作業になる。よって、宿題、特に日本語を中国語に訳す練習問題からは、学生がよく間違えるポイントがもっとも見えやすいと考えられる。以下、学生の宿題で見られる間違いを例文として挙げる。順番は教科書の出る順番による。

- ①他是什么名字？/他叫什么名字吗？（彼は何という名前ですか。）
- ②弟弟没有家。（弟は家にいません。）
- ③那儿在两个本店。（あそこに本屋さんが2軒あります。）
- ④我打工在电影馆每日晚上。（わたしは毎日夜映画館でバイトする。）
- ⑤夏天海边在可以游泳。（夏は海辺で泳ぐことができます。）
- ⑥他唱歌很好。（彼は歌が上手です。）
- ⑦他步快。（彼は歩くのがとても速い。）
- ⑧他学汉语两年在大学。（彼は大学で中国語

を2年間学びました。）

- ⑨我等三十分他在美术馆。（わたしは美術館で彼を30分待ちました。）
- ⑩我买妈妈礼物。（わたしはお母さんにプレゼントを買いました。）
- ⑪我昨日在家看书一天了。（わたしは昨日家で1日本を読んでいました。）
- ⑫我没看李老师。（わたしは李先生をお見かけしませんでした。）
- ⑬课结束打电话你。/课结束打你电话。（授業が終わったらあなたに電話します。）
- ⑭她能游泳十公里。（彼女は10キロ泳げます。）
- ⑮我不听过中国的音乐。（わたしは中国の音楽を聞いたことがありません。）
- ⑯我男朋友和一緒去开车旅行。（わたしはボーイフレンドといっしょに車を運転して旅行に行きます。）
- ⑰他们来星期一还是星期二吗？（彼らは月曜日に来ますか、それとも火曜日に来ますか。）
- ⑱我在发朋友邮件。（わたしは友達にメールを送っています。）
- ⑲别忘买爷爷生日蛋糕。（おじいさんに誕生日ケーキを買うのを忘れないでください。）

例文①“他是什么名字？”は動詞“是”の意味についての誤解によるものである。新しい語句では、“是”の意味を「～である」とあり、授業でも、“是”は判断・定義を表す動詞で、すべての文に必要というわけではない、と説明するが、学生にとっては理解しにくいところである。特に日本語が「彼は何という名前ですか？」となっているため、動詞“叫”が頭に浮かぶことは難しいであろう。

例文①“他叫什么名字吗？”最後に“吗”をつけるのは、“吗”が疑問文を構成するのに不可欠だと勘違いしているからである。そのため、疑問文は種類によって、“吗”が必要でない場合もあることを詳しく説明する必要がある。また、教科書の後半になると、例文⑰のような選

択疑問文の登場によって、中国語の疑問文の四つの形が出揃う。この時点で、中国語の疑問文について纏めて復習して、学生に疑問文の全体像を掴ませるのも大事である。

例文②と③は動詞“有”と“在”の誤用である。“有”は所有、存在を表す動詞で、“在”は特定の人や物・建物の所在地を表す。この二つの動詞の一番大きい違いは、“在”は特定のものに使い、“有”は一般的なものに用いるところにある。学生に、「特定なもの」と「一般的なもの」の概念を理解するために、多数の例を列挙するのが有効であろう。

例文④は前置詞と時間詞の語順の問題である。前置詞に関しては、例文⑤と⑬からも似たような問題点が見られる。前置詞が初出した時、まず「前置詞」、即ち「前に置く詞」と名前の意味から説明し、更に「前に置く」というのは「前置詞は名詞の前に置く」と「前置詞＋名詞のフレーズは動詞の前に置く」の二重の意味があることを強調したら、少しは理解の足しになるかと思われる。

また、時間詞を動詞の後ろに置く点から見ると、例文⑭も同様である。これは明らかに英語の語順による影響である。

例文⑥⑦⑧⑨⑪⑫⑭は補語の問題である。⑥⑦は様態補語を用いるべきところだが、使われていない。学生にとって、様態補語を使うタイミングが最も難しい問題のように思われる。その感覚を身に付けるのはとても時間のかかる作業なので、初級の段階では、取り敢えず「～するのが～」の表現が出たら、様態補語を使うという風に教え込んだら良からう。例文⑧⑨⑪は数量補語（時量補語）の目的語の語順の問題で、⑫は結果補語が欠落しており、⑭は離合詞に補語がついている場合の例文になる。

中国語の補語という文の構成要素は日本語にないもので、間違いやすい。そのため、最初に補語に触れた時に、「補足的な言葉」であることを強調し、更に「動詞や形容詞について」補足することや、「本体があつての補足」だから、「補語は大體動詞や形容詞の直後に置く」、それ

で「目的語があつたら、補語の後ろに置く」（一部例外があることはその文法ポイントが出てから説明）という基本中の基本を繰り返して説明することが効果的かもしれない。

また、例文⑧⑪は完了を表す“了”の使い方の問題がある。“了”も学生にとって難しいので、できれば、完了を表す“了”と語気助詞の“了”を並べて、比較しながら纏めることが望ましい。

⑩⑬⑱⑲は「人に何かをする」の表現に関する問題である。中国語で、この四つの例文のように、「動詞＋人（間接目的語）＋物（直接目的語）」の形で使える動詞は「給」「送」「借」「还」「告诉」「教」「问」だけで、しかも、この七つの動詞は、主語と間接目的語の間に、直接目的語（物だったり情報だったり）が移動するという共通点がある。この七つの動詞以外の動詞が二重目的語を持ちたい時は、前置詞が必要になり、「前置詞＋人（間接目的語）＋動詞＋物（直接目的語）」の形を取る。こうなると、二重目的語というより、「前置詞＋人」の部分の後ろの動詞にかかる連用修飾語だと考えた方が分かりやすいと思われる。

⑮は“过”の練習でよく見られる間違いである。動態助詞“过”は否定形がよく間違われるだけではなく、日本語を中国語に訳す際によく忘れられる。「～したことがある」という意味を学生にしっかりと覚えさせ、日常会話で使えるような例文をたくさん練習させたほうが良いかもしれない。

また、単語の微妙なズレ、例えば例文③の“本店”（书店）、④“电影馆”（电影院）“毎日”（每天）、⑦“步”（走）、⑬“课结束”（下课）⑯“一绪”（一起）は、日本語における漢字の使い方による影響で、単語を勉強する時に、ピックアップし、学生の注意を喚起する必要がある。また、学生が単語を覚える時、本文の単語とドリルの単語の間に、記憶の正確さに差が出る傾向が見受けられる。ドリルにある重要度の高い単語は授業中で繰り返して練習して、学生に正しく覚えさせるように工夫する。

三

『語順から学ぶ中国語2 改訂版』では、主に次の文法ポイントが新出する。

- ・ 補語：方向補語、可能補語
- ・ 兼語式連動文：“请”“让”“叫”を用いる使役文、“有”を用いる連動文
- ・ “把”構文
- ・ 存現文
- ・ 受動文
- ・ 主述述語文
- ・ 前置詞：到、对、除了、往、和、向、为了、连
- ・ 助動詞：应该、得、会、要
- ・ 副詞：又、再、还、有点儿、多、不要、越……越、只、最好、一直、更、一边……一边、原来、从来、老是、差点儿、说不定、正好、只好、或者、又……又
- ・ 接続詞：因为……所以……、不但……而且……、虽然……但是……、要是、只要……就
- ・ 助詞：動態助詞“着”
- ・ 慣用表現：“是……的”、疑問詞+“也”+否定、“一点儿也/都”+否定、疑問詞+“都”/“每……都”、“对……来说”

これらのポイントに関して、次のような間違いが宿題に見受けられる。

- ⑳老师回来中国。(先生は中国に帰って行きました。)
- ㉑我不是来出張。(わたしたちは出張に来たのではありません。)
- ㉒他请我们北京。(彼はわたしたちを北京に招待してくれました。)
- ㉓我从星期一就星期四都打工在这里。(わたしは月曜日から木曜日までずっとここでバイトしています。)
- ㉔作业不多，我今天会结束。(宿題は多くないので、今日仕上げることができます。)

- ㉕我叫他有点儿早来。(わたしは彼に明日少し早く来るようにと言いました。)
- ㉖他一定会接来饭店你的。(彼はきっとホテルにあなたを迎えに来てくれるでしょう。)
- ㉗我们在教室挂地图。(わたしたちは地図を教室に掛けました。)
- ㉘很累了，可是很高兴了。(とても疲れましたが、とても嬉しかったです。)
- ㉙请写你的电话号码。(あなたの電話番号を書いておいてください。)
- ㉚我们正在准备去旅行中国。(わたしたちは中国に旅行に行く準備をしているところです。)
- ㉛这画高，我不能买。(この絵は高いので、わたしは買えません。)
- ㉜想学，一定会(空白)。(学びたいければ、きっとマスターすることができます。)

前期に引き続き、後期も補語が一つ大きな難関であり、例文⑳㉑㉒㉓㉔はまさにその補語に絡んだ問題である。㉕は方向補語で、「動詞+場所+方向補語」の式で覚えさせる。㉖㉗㉘は可能補語の問題ではあるが、㉙以外の二つの文は「能+動詞+結果補語」で言い換えられるから、㉕と㉖は結果補語の不慣れによる間違いと言える。㉕の日本語は「仕上げる」とあるため、混乱が生じる。解説する時は、「作業」と一緒に使う動詞は何? というヒントを出してあげると、学生が正解に辿りやすい。㉚の「マスター」も同じで、それを「学んでできる」と一回訳すと、学生も分かりやすくなる。㉙の結果補語の“下”が抜けているのも、それが日本語では言葉として反映されていないからであろう。

また、可能補語「動詞+得+結果補語」を「能+動詞+結果補語」に言い換える場合、肯定はできるが、否定「動詞+不+結果補語」は「不能+動詞+結果補語」に言い換えられないこと、そして助動詞は「能」しか用いてはいけなことを強調する必要がある。

㉙は慣用表現“是……的”の練習で、この慣

用表現について、「動詞の前の部分について強調する」、「強調したい部分を“是”と“的”の間に入れる」、「過去のことにしか使えない」の三点を学生にしっかりと覚えさせる。中国語検定四級に必出とも言えるポイントなので、受験対策としても重要である。

⑳は“请”を使う兼語式連動文、㉑は“把”構文を使う練習で、二つの文は一見無関連に見えるが、例文のような間違いが引き起こされた原因は日本語にあるところが共通している。㉒の正解は“他请我们去北京。”、しかし、日本語には「行く」という言葉がないから、その“去”を補える学生はごく少数である。㉓の正解は“我们把地图挂在教室里了。”になるが、例文のように、“把”を使わずに、“我们在教室里挂了地图。”も「わたしたちは教室に地図を掛けた」という意味にもなっている。場面に応じて“把”構文を使うのは、初級学習者にとって非常に難しいことで、一応の目安として、「特定な物」、「動詞に補語がついている」なら、“把”構文を使ってみるがいいとアドバイスすることに止まる。また、初級段階では、“把”構文を正しく読み解き、穴埋め問題を正解できることを目標にしても良いと考えている。

㉔は前置詞の問題で、㉕㉖は連動文の語順の問題である。連動文については、日本語の語順に惑わされずに、動作の前後順番に従って文を組み立てれば良いと説明したら十分であろう。

㉗は「少し」という意味の表し方の問題である。日本語の「少し、ちょっと」を中国語に訳す時、“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”の三パターンが考えられるが、“有点儿”は副詞で、動詞の前に置き、好ましくないというニュアンスがプラスされる。“一点儿”と“一下儿”は数量詞で、動詞の後ろに置く。“一点儿”は後ろの

目的語にかかり、その目的語の量が少ないことを表すのに対して、「動詞+“一下儿”」は動詞の重ね型に等価しているから、“一下儿”は動詞にかかる。このように、三つの言葉を品詞、語順、役割の三項目で比較すると、学生も掴みやすくなる。

㉘は形容詞文の問題で、形容詞文には過去形がないから、完了の“了”と一緒に使わない。形容詞文に出る“了”は変化の“了”であると覚えてもらえば解決できるであろう。

結語

初級中国語授業において、筆者が気付いた学生の間違いやすいところ、そして実際それを学生に説明するときのポイントを以上の通り纏めてみた。担当教師やクラスの学生構成によって、間違うポイントが違ってくることはあると思う。しかし、すべての初級クラスには、一年の勉強を通して、受講生が中国語検定四級に合格し、そしてできれば、中国語学習そのものが一年で終わらず、二回生、三回生になってもなお中国語を勉強し続けるという共通の目標がある。それを達成させるには、各クラスの状況に応じた工夫が必要である。この研究ノートがその目標に達成させる一助となることを切に願う。

参考文献

- 朱捷・朱鳳 2015.『語順から学ぶ中国語 1、2 改訂版』白帝社
 郭 春貴 2005.『中国語検定対策 3級・4級 文法編』白帝社
 呉 麗君 2005『中国語の誤用分析—日本人学習者の場合—』関西大学出版社
 中国語教育学会 学力基準プロジェクト委員会 2007.『中国語初級段階学習指導ガイドライン(文法項目表・学習語彙表)』